2015年
入試用

学校説明会レポート

ICHISHIN
市進

駒込中学校・高等学校

日時　2014年4月11日（金）11時00分～12時00分
所在地　文京区
対象　塾
出席者数　約340名
配付資料　説明会資料、「駒込学園・温故知新の改革」「駒込だより vol.186」
「平成27年度入試用　駒込中学校・高等学校入試報告会資料集」
「2013年学校案内」（中学・高校）、過去問題、「一都三県入試情報」

説明会の概要

学校長挨拶　河合孝允校長 11:05～11:25

- 2014年度入試では、中学95名、3クラス（Sアドクラス35名、アドクラス30名×2）、高校427名（Sアド3クラス、アドA3クラス、アドB4クラス）の計522名の新入生を迎えることができました。
- 「併設型中高一貫校」への転換について
  中学は次年度より「併設型中高一貫校」に転換します。そのための手続きをすでに所轄庁に申請しています。本年度入試はその前哨戦としての位置づけでした。公立中高一貫校のPISA型入試問題を教科ごと独自に研究作問し2月1日午後入試で実施しました。その結果午後入試の受験倍率が5.53倍に跳ね上がっています。本年度入学してきたSアド生35名は本校がこれまで対象としてこなかったハイレベルの生徒たちで、当然受け皿として意欲的な教師群を投入しています。6年後は「東大・東工大・早・慶」受験の中核となる生徒たちであり、そのための「併設型中高一貫校」への転換です。本校の入試改革は学校の構造改革の一環です。「生徒募集まずありき」ではありません。私学の存在理由は「建学の理念」にあるからです。
- 「難関国公立進学コース」の立ち上げについて
  高校は現在3コース制（Sアド、アドA、アドB）を敷いています。SS65以上のSアド、60以上のアドA、55以上のアドBです。アドBでは54以下でも当日点で合格している受験生がいます。現在の主力は60前後の受験層です。これを65に近づける

入試努力を開始します。大学入試で GMARCH 以上を狙える層の獲得のためです。そのために年度方針で「難関国公立進学コース」の検討委員会立ち上げを指示しました。また理系プロジェクトチーム、文系プロジェクトチームをより一層強化していきます。

●世界標準化対応「21 世紀ミレニアム学校改革」について

駒込学園は新時代対応の「21 世紀ミレニアム学校改革」を開始しています。キーワードは「個性のブランド化」です。平成 11 年国民教育会議は「自由の教育化」を打ち出しました。「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断しより良く問題を解決する能力を見る「新学力観」として宣言された理念です。本校は「世界に羽ばたく駒込」のキャッチフレーズの下、国際部を立ち上げ、ハワイセミナー、海外留学制度、海外修学旅行、他教科の授業を英語で行うイマージョン授業、英語キャンプ、オックスフォード大生インターンシップ受け入れなど精力的に行っています。21 世紀が求める「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」を養い育て、「IB（国際バカロレア）・世界標準化時代」対応の「個性をブランド化する教育」を開始しています。

中学入試結果報告

中学教頭　角田　淳先生 11:25～11:35

●2 月 1 日 1 回アドバンスの出願は 92→89 名と微減でしたが、午後の 2 回スーパーアドバンスは適性検査型の増加で 105→221 名と大幅増となりました。応募総数では 418→484 名と 16%増でした。スーパーアドバンスの合格者は成績によって特待生となります。出した特待合格の人数は特待 SS が 1 名、Ⅰが 15 名、Ⅱが 25 名、Ⅲが 43 名でした。入学者 95 名の男女別は男子 64 名、女子 31 名です。都県別では東京 83 名、神奈川 0 名、千葉 5 名、埼玉 7 名、茨城 0 名でした。

●併願の公立中高一貫校

小石川 42 名、白鷗 30 名、両国 18 名、九段 15 名、大泉 5 名、富士 5 名、三鷹 3 名、桜修館 3 名、横浜市立南 1 名、このほかに国立大付属の東大附 4 名、学芸大附 3 名。

●【変更点】2015 年入試は変更なし。

高校入試結果報告

高校教頭　中澤　春江先生 11：35～11：45

●スーパーアドバンスコースの入学者はこの 3 年間で 36→61→90 名と増えてきた。

●高校の併願校

①スーパーアドバンスコース

（都立）都立入試 800 点台に位置する受験生

日比谷・富山・青山・新宿・両国・竹早のほか武蔵・国際・駒場・小山台

（国立大付属校）学芸大・筑波大・お茶大・東工大

（私大付属校）早実・慶応志木・明大明治・中央大・青学・法政・法政女子・

國學院久我山など。

②アドバンスＡコース

都立入試 750～800 点台の層に位置する受験生

三田・白鷗・城東が多く、特に今年は三田が多かった。あとは大泉・町田・小松川・北園など。私立では國学院が多い。

③アドバンスＢコース

都立入試 650～750 点の層に位置する受験生

上野・文京のほか、豊多摩・目黒・墨田川・江戸川・豊島・雪谷・広尾・深川・晴海総合など。

本校の受験生は都立入試で科目平均が 70 点以上の層で、上位は３科内申 15 の生徒が主流になっています。今後 SS70 以上の都立トップ層をＳアドコースに定着させていく具体策を図ります。それが本年度の全学あげての取り組み課題です。入学者 427 名の男女別内訳は男子 237 名、女子 190 名、都県別では、東京 293 名、神奈川４名、千葉 77 名、埼玉 45 名、茨城２名、その他６名。

●【変更点】アドＢの内申基準に以下の変更があります。

単願推薦、併願推薦、併願優遇ともに３科基準を廃止し、９科基準を１ポイント上げる。（単願９科 33→34、併願 34→35）

入試日、定員などこれ以外は 2014 年度と同じ

●国際理解教育ではイマージョン授業（中学では英会話の授業の中で、高校は高 1 で週１回７限に実施）の希望者が 200 名を超えています。
留学希望者も 100 名を超えています。

進路結果報告

（文系）進路部長　浅井　紀子先生　11:45～11:55

●今年の大学合格実績は下がったように見えますが、今春卒業した学年は（高校入試の）基準を上げたために入学者が減った学年で、前年より 100 名ほど少なかった（393→296 名）のが１つの要因です。

●前年は東大合格者が出ましたが、今年は最難関レベルの合格者はいませんでした。国公立大は東京農工大１名、電気通信大１名、東京海洋大、防衛医大１名など７名（大学校含む）、難関私大は早大４名、上智大３名、東京理科大 11 名、GMARCH57 名などです。

●今年は国公立大７、早慶上理 18、GMARCH57 の合計で 75 名でしたが、次年度以降の目標は、27 年が 115（国公立 15、早慶上理 30、GMARCH 70）、28 年が 140

（国公立 20、早慶上理 40、GMARCH 80）です。

入試担当者紹介　11:55～12:00

●７人の先生と５名の参与（地区担当）が紹介されました。

説明会の雰囲気・印象

●内容、資料ともに充実していました。河合校長の話はいつもながらスケールが大きく、時代を見据えた将来構想を語り、単なる「入試報告会」の校長挨拶を超える話でした